

第1回コミュニティ推進基本方針策定懇話会 議事録

1. 日 時 平成25年3月14日(木) 19時00分～20時00分
2. 場 所 光市役所3階大会議室1・2号
3. 議 題 懇話会について
コミュニティ推進基本方針の策定方針について
光市における地域コミュニティの現状等について
4. 出席者 別紙2のとおり
5. 配布資料 コミュニティ推進基本方針策定懇話会について 資料1
コミュニティ推進基本方針の策定方針について 資料2
光市における地域コミュニティの現状等について 資料3
6. 議事録

(1) 委嘱状交付

市長より、委員の代表に委嘱状を交付。

(代表は、公募委員の小林委員)

(2) 市長あいさつ

本日は皆さん、大変お忙しい中、コミュニティ推進基本方針を策定する委員会にご出席をいただきました。

そして、只今、委嘱状を代表して小林さんにお渡ししましたが、皆様方におかれましては、快くお引き受けいただきました。よろしく申し上げます。私たち、今から皆様方にお話をさせていただくコミュニティ推進基本方針というのは、今からのまちづくりの中核となるわけであります。とにかく、コミュニティというものは、私は一番に「絆」という言葉を思い出すわけでありますが、この「絆」を皆様方に一つのメインテーマとしてお話をさせていただければと思います。

そこで、私が皆様方にご紹介したいのは、私が今議会において、1時間20分にわたり、皆様方にお話をした施政方針の中で、コミュニティについて一つ本当の想いをこの中に書いてありますので、ほんの一部ではございますが、皆様方にご紹介したいと思います。

これは、結びに私が述べたことではありますが、「さて、本年度の予算について、様々な角度からご説明をしてまいりました。しかしながら、只今、私がお示しした一般会計219億円と特別会計約162億円、合わせて約381億円という予算だけで光市が運営されているわけではありません。この予算に、冒頭申し上げました「市民力」、すなわち市民の皆様方のボランティアや自発的な活動などが加わって、我が故郷「光市」は動いているのであります。「市民力」は、クリーン光大作戦、自治会の活動、子どもたちの見守り活動などはもとより、道に落ちているごみを一つ拾うこと、あるいは近所の人や子どもたちに明るく接することなど様々な場面で発揮されますが、私は、これら一つ一つが、皆様からいただいた隠れた予算だと思ってお

ります。そして、この隠れた予算が大きければ大きいほど、市民生活が豊かになることは間違いありません。」こういう風に、申したわけですが、光市の限られた財政力や市民の皆様方のニーズが多様化する中で、行政だけでは光市を動かしていくことはできません。そこで、私たちの予算と皆様方の隠れた予算をどのようにして市民の皆様との協働でやり抜き、市民の皆様の幸せや満足度を大きくしていくのか、これが、私の皆様方に対する一つのお願いであり、これを中心にして話していただければと思っているわけですが。

勝手なことを申し上げますが、ぜひ、皆様方のお力とお知恵を貸していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

(3) 自己紹介

委員の自己紹介

(「これからの地域がどうあってほしいか」を一人ひとりが自己紹介に併せて発言)

(4) 会長・副会長選出

委員より「事務局一任」の声あり。

事務局より、会長に棟近俊彦委員、副会長に見村興哉委員という提案をし、拍手により承認。

(会長あいさつ)

ご推薦いただいたのですが、見まわしてみますと、私が年が上から1番目か2番目3番目かなと思います。もちろん、皆様のリーダーを取るといった器ではありませんが、皆様の忌憚のないご意見を拝聴しながら一緒に勉強して、いい懇話会の成果ができればうれしいかなと思います。従いまして、和気あいあい今年一年を、身内でもありますので、仲良くしてください。どうぞ、よろしく願いいたします。

(副会長あいさつ)

どうもこういうところで挨拶をするのはあまりうれしくないのですが、むしろ皆さん方とワイワイガヤガヤやる方がいいのですが、棟近会長を立てて、一つ色々な形を作っていきたいと思っております。コミュニティは非常に大事でございますので、家庭から始まって向こう三軒両隣・地域、そして、自治会、公民館という形で、その地域地域の特性を活かして、いろんな形で行事等が展開されればいいと思っております。基本方針づくりに、皆様方の英知を結集して進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(5) 議事

①懇話会について ②コミュニティ推進基本方針の策定方針について

※議事①②は関連があるため併せて事務局が説明。

※資料1・2に基づき説明。

(会長)

只今、「懇話会について」と「策定方針について」の説明がありましたが、これに関して、何か質問がございましたらお願いします。なお、発言の際は挙手をいただき、私が指名いたしますので、それからご発言をお願いします。

(委員)

コミュニティ基本方針を、なぜ今策定していこうと思っているのかということと、大和地域については、連合自治会も地域コミュニティも全然進んでいませんが、このへんの差が地域によって非常にありますので、進んでいる5地区については、このままでいいと思うのですが、なぜ、新しく基本方針を作るのか教えていただければと思います。

(事務局)

各地区で色々な取組みが行われている中で、なぜ今基本方針を策定するのかということですが、遡ること、平成19年の公民館の自主運営がスタートしてからのところになります。地域選出主事の負担や地域と行政との関わりがどうなったのかといった話が公民館関係者の話の中でありましたが、ある程度分かってきたこととして、「対話」、いわゆる話し合いが非常に不十分であったと分析しております。自主運営自体を地域の中で分かっていない方も多いですし、自主運営をすることによって、地域コミュニティの進み方がどういう形になるのかといったことが行政と地域との話し合いでもなかなかありませんでした。通常、こうした活動等を進めていく上で、対話、話し合いが一番大切なんだと思いますし、組織の作り方や地域づくりの在り方など光市としての方向性もないまま進んでいますけれども、ここで一度立ち止まり、1年間かけて基本方針を作って、そこから、地域との対話を、きちんと各地域で各地域の実情に合わせて、進めていく必要があると思います。

このようなことから、市としての地域づくりの羅針盤という形で基本方針を策定していくということになったわけでございます。

(委員)

説明は分かりましたが、ただ、白紙に戻してやるのか、それとも、公民館を中心にやるのか、そのあたりの関係が分かりませんので、次回のワークショップから、白紙で皆さんと考えるのか、または、今までの各地域での現状を中心に進めていくのかを説明いただければと思います。

(事務局)

実際に進んでいる地域もありますので、白紙は基本的にはないと考えますが、策定した後、各地域で、再度これからの地域がどうなっていくのか、例えば、高齢化であれば5人に1人が高齢者と言われていますが、10年後には3人に1人変わってくる。そういったものもきちんと話をしないとイケませんし、行政側の行政組織

のスリム化や財政問題なども地域にさらけ出した上で、地域づくりをどうしていくのか、今あるコミュニティがこうした話し合いの中で、この組織で発展的にやっていくと決めればそれはそれでよろしいかと思えます。基本方針はあくまでも羅針盤ですので、これを押し付けるということは地域も望んでいないと思えますので、こうしたことは、話し合いの中で決めていければいいのかなと思えます。

(委員)

これまで行政主導型のまちづくりを作ってきたと思えますが、これが、公民館そのものが自主運営という形で、民間の力で活動を運営していこうということで移行してきたと思えます。さらに、連合自治会ということで、各地域での自治会において、自分たちで自分たちのことをやっていこうではないか、言い換えれば、市民全体で物事を一生懸命改善していこうと。こうした中で、行政は今までのやり方と違った市政のやり方をしたいということになるのですか。

(事務局)

自分たちのことは自分たちでやっていこうという市民の皆様の当事者の意識という部分は、当然、これからの新しい公共も踏まえて必要になってこようかと思えます。その中で、行政との関わりについては、委員おっしゃったように、今までの行政主導型から変わってくると思えますが、地域づくりというものは、市政でもベースになってくるものがございますので、当然、行政も地域との協働のパートナーになるわけですから、どういった形になるかは今からの整理になりますが、パートナーとして、一緒に地域づくりを進めていこうという想いを基本方針の中に入れていきたいと考えております。

(委員)

多分そうだと思いましたが、ただ、各地域でばらつきがあると思うんですね。まだ、自治会組織がまとまっていない地域もあれば、浅江みたいに完全体で進んでいる地域もあるように聞いていますが、そのへんの調整というものは、今後、非常に難しいと思えます。そのあたりを大切にし、お互いの立場を尊重しながら、会議を進めていきたいと思っています。

(会長)

浅江ということで、先進地のように思われているかもしれませんが、確かに、色々な方の協力を得て、少しは進んだ部分があるかなと。ただ行事が大変多いので、皆さんそういう風に勘違いしているのではないかと思えます。というのも、私どももここにきて1年生で皆さんと同じスタートラインに立って物事を考えていかないと上手くいかないと考えておりますので、決して、先進地ではありませんので、どうぞ、色々なことを教えてください。よろしくお願いいたします。

(委員)

質問ではないのですが、この資料を読んで、画期的だなと思ったのは、色々な懇話会に皆さん参加していると思うのですが、なかなかここまで、行政のことを書かれたことはあまり見たことがないと思います。なので、先程事務局の方が行政も地域づくりのパートナーとおっしゃいましたが、そのところは私たちも大切にしていきたいですし、行政もそう考えてほしいなと思います。同じテーブルにまず座るところから始めたいなと思います。ですから、具体的なことを申しますと、庁内組織を立ち上げられ、これからいろいろ話し合いをされると思うのですが、それが私たち懇話会とどのようにシンクロするのかわかりませんが、どこかの時点でシンクロしたらいいなと思っています。

(委員)

非常に難しい問題に取り組まれたと思います。確かに、欠けている点だと思いますが、一体、コミュニティになにを期待するのかと思います。現状と理想論はかなり違っておられますので、解決策は全くないのですが、光市で立派な解決策が出てくればいいなと期待しています。非常に難しい問題だと感じています。

(委員)

私がいつも思っているのは、「コミュニティ」という言葉を皆さん使われますが、これは30年前から聞いていますが、分かっているようで分かっていない。中身はどういうものなのかなと、人のつながりなのかなと。いつも迷うのですが、分からないことですね。

(会長)

時間が来ていますので、このあたりで、次回の会合に席を譲りたいと思います。本当に熱心な協議ありがとうございました。次回もよろしくお願ひします。

(事務局)

資料3 コミュニティの現状については、次回のワークショップの中で話をさせていただきたいと思います。

今回は、4月27日(土)になりますが、13時~17時の4時間という長丁場になりますが、このあたりで予定をしておりますので、よろしくお願ひいたします。

委員自己紹介「これからの地域がどうあってほしいか」

(福原委員)

高齢者が困らない地域にしていきたいと思っています。

(見村委員)

豊かな財政のもとで、老若男女が支え合える優しい地域であってほしい。

(梅本委員)

もうすぐ後期高齢者になりますが、死ぬまで安全で安心して暮らせる地域と笑顔で挨拶が飛び交う地域を目指したいと思っています。

(福森委員)

行政と連携・協働して、自立した公共サービスの担い手となるということですが、いろいろな人の出番があるまちになってほしいなと思っています。

(田村委員)

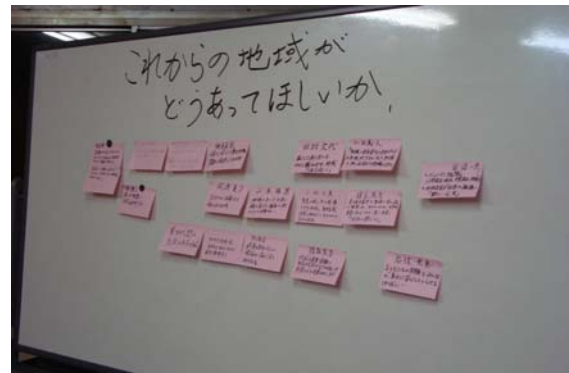
色々転勤をし、10年前に光市に戻ってきた中、転勤先の地域に馴染むことが大変だなと思っておりましたが、そういう方々が親しみやすくやさしい地域であってほしいなと思っています。

(小西委員)

2年前の東日本大震災がありました。室積は海に近い地域ですので、心配事がいっぱいあるのですが、特に、地域の安全安心なまちづくりですか、これが第一で、第二では、室積は少子高齢化が非常に進んでいまして子どもがだんだん少なくなっています。これから、子どもとのふれあいをしっかりやって、地域間の連携を取りたいと思っています。

(深來委員)

大きい夢をご披露すると、若者よどんどん結婚して、どんどん子どもを産んでいただきたい。そして地域は、産んで生活する子どもに相応しい環境を作ってあげてやってほしいと思います。もう1つは、どうか高齢者の方、高齢者だからといって家の中に閉じこもるのではなくて、どんどん外に出てどんどん活動をしてほしいと思います。そのための環境づくりを地域は作っていくべきであると思います。



(岩佐委員)

子どもたちが笑顔で楽しく過ごせて、私は障害を持っている子どもがおりますので、障害があったりとか、高齢になっていろんな障害をもたれたりとかいろんな方が、安心して幸せに過ごせるまちになってもらいたいと思います。

(岡崎委員)

学校で子どもたちを預かる立場の者として、子どもたちが活躍できる場がある地域と書かせてもらいました。今、光市でコミュニティスクールを推進しております。平成26年度すべて小学校がコミュニティスクールになりますけれども、地域と学校とが協働して子どもたちを育てていこうと今しているところです。その中で、どちらかと言えば、地域の方々に学校がお世話になったり、色々助けていただくことが多いのですが、これからは、学校も地域にどんどん出て行って、地域の中で子どもたちが様々な体験をする中で、体験をとおして、責任感や礼儀を身に着けていくことが必要であるなどと思っています。どんどん子どもたちが地域で活動させていただく場があればと願っております。



(山本委員)

福祉の仕事をさせていただいております、今、地域において新しいアパートができて、新しい住民が増えています、お互いが顔の見える地域、福祉1つとっても、福祉員にただなればいけないのではなくて、地域に顔の分かる人が必要ではないのかなと思っています。

(小林委員)

3. 11が近かったので、そのことをやっぱり考えてしまうのですが、危急の時に力が発揮できる地域でならなくてはいけないと思います。危急の時に発揮できる地域とは色々な意味があると思いますが、1つには、防災と福祉というのが、今一番危機感をもたなければいけないことなんだろうと思っています。ですけど、地域が楽しくなければいけないので、ゆるやかに文化が交流できて、楽しければいいかなと、今この2つのことを思っています。

(棟近委員)

先程3. 11のお話がありましたが、私もそのとおりだと思います。やはり、安心安全の上でないと、なにをやっても上手くいかないと思ひまして、その上で絆づくりに力を注いでまいりたいと思っております。

(田沼委員)

先日は、山口県の地域マスターカレッジ卒業式がありまして、その時に、長寿社会推進員という認定をされまして、光市から10名認定されました。私は、コミュニテ

ィの組織と新しい公共、この2つを目指していこうと思っております。

(福原委員)

私は、異世代間の交流がある地域と書きました。これは、互いに支え合うことが一番大切なのかなと常日頃思っております。

(田中委員)

子ども会には、20年くらい関わってきましたが、光市は全国平均より20年早く高齢化が進んでいる現実があるのですが、子どもは地域の宝ということで、子どもを中心に地域の人たちがそれを支え合うような社会を作っていきたいと思っております。

(中川委員)

共通目的に向かって、積極的に協力し合う地域社会こういう風に思います。老人クラブ連合会の仕事をさせていただき3年になりますが、その前は公民館長を10年ばかりやりましたが、比較してみると、老人クラブの活動は意思統一がしっかりできて、非常に協力して楽しいんですね。こういう力が一般の地域社会で取り入れられないかなと思います。

(林委員)

塩田地区は、高齢者がかなり多い地域でございまして、若い人が定着して活気あるまちづくりを作れたらなと思っております。